黒石の十三塚（くろいしじゅうさんづか） 十三基

◆指定年月日　平成 5 年 12 月 13 日
◆所在地　　水沢黒石町字下柳
◆所有者　　個人、奥州市

黒石十三塚は、往古の黒石寺境界領域に東西方向に総延長 169.8m の範囲で横一列に並びます。15～16 世紀に成立展開した十三仏信仰に基づいて築造されたものと考えられています。伝承によれば、250 年程前にこの地域で黒石寺から嫁をもらった際、お歯黒料として十三塚を含む山林が与えられたといいます。

岩手県下では唯一の完全例で、東北地方でも仙台市の例と合わせて２例のみと、当時の民俗信仰を考えるうえで重要です。

塚 13 基、面積 2,992.345 ㎡

巡礼納札（じゅんれいのうさつ）

◆指定年月日　昭和 54 年 8 月 17 日
◆所在地　　江刺玉里字玉崎
◆所有者　　(宗)玉崎駒形神社

戦国時代永禄２年（1559）の観音百ケ所霊場巡礼結願の札で、願主は新山寺禰宜の筑前です。上部に日天(赤丸)、月天(白丸)と十一面観音坐像が鮮やかに描かれており、中世期の巡拝資料として貴重です。県内には他所にも別種の巡礼納札がありますが、結願木簡としては県内唯一のものです。この百ケ所霊場とはどこであるのか、今は全く伝えられていません。

49.7cm、12.1cm、板製著色、桂材、槍カンナ削り
【銘文】
三十番神　願主新山祢祈筑前也
奉納白山妙理大権現御寶百千所結願之簡
十羅刹女　永禄貳年己未三月三日敬白

まいりの仏（ほとけ）

◆指定年月日　昭和 60 年 2 月 5 日
◆所在地　　江刺岩谷堂字雲南田
◆所有者　　個人

まいりの仏は、菩提寺がなかった時代に発祥し、祭日には民家などに人々が集まり、参拝する掛軸などのことです。本画は聖徳太子が、父である用明天皇の病気平癒を祈願した姿を描いたものです。画像としても優れており、この種では典型的な図柄です。絹本の画像には５度の修理銘が記録されており、最も古いものは室町時代、明応３年(1494)です。紙本の画像は彩色・文字共に極めて鮮明で、室町時代、文明２年(1470)慶覚作と銘があります。

①

②

① 孝養太子画像　絹本著色　明応 3 年修理銘　絵画面　縦 110cm、横 80cm
② 孝養太子画像　紙本著色　文明 2 年「画師治部少輔伊沢之住人長沢之慶覚」作銘　絵画面　縦 137cm、横 81cm

まいりの仏（ほとけ）

◆指定年月日　昭和 60 年 2 月 5 日
◆所在地　　江刺稲瀬字広岡
◆所有者　　(宗)広徳寺

室町時代の延文４年(1359)の銘がある県内最古の「まいりの仏」画像で、岩手県の中世庶民信仰史を探る上で、きわめて重要な資料です。明治 34 年（1901）ごろ広徳寺に奉納されましたが、かつては一族５軒共有のおがみ仏でした。善導太子は阿弥陀如来の他力念佛を大成した人で、浄土宗の高祖とされています。

表具全体：縦 163cm、横 52.6cm　絵画面：縦 90cm、横 39cm、絹本著色

姉体庚申塔（寛永十二年銘）
あねたいこうしんとう　かんえいじゅうにねんめい

◆指定年月日　平成 25 年 11 月 5 日
◆所在地　水沢姉体町字庚申塚
◆所有者　個人

径 7 メートル、高さ 1.6 メートルの塚の上に立ち、寛永 12 年（1635）3 月 10 日の銘を持つ岩手県最古の庚申塔です。頂部が山形の中世板碑のなごりを持つ自然石を用いており、青面金剛を本尊とせず、五大種子と薬師如来種子の梵字が彫られていることや、12 行にわたり庚申の神とその功徳が記されていることなど庚申塔の古い形態をとどめています。江戸時代の庶民信仰を伝える貴重な資料です。

【塔】高さ 102.5cm、巾 97cm、奥行 29cm

佐倉河東広町のまいりの仏（さくらがわひがしひろまち　ほとけ）

◆指定年月日　昭和 49 年 4 月 1 日
◆所在地　　水沢佐倉河字東広町
◆所有者　　個人

室町時代の制作と推定されていて、中世の民俗信仰を伝えるものとして貴重です。紙本であり、紙を継いで大きくしています。聖徳太子が馬に乗って天上に飛び上がり、そのまま空を駆け出して、都から信濃国の善光寺の阿弥陀如来にお参りしたという、黒駒太子の説話が描かれています。現在も先祖の命日に吊るしてお参りが行われています。

黒駒太子画像
絵画面：縦 109.0cm、横 41.5cm

船絵馬（ふなえま）

◆指定年月日　昭和 56 年 5 月 19 日
◆所在地　　江刺愛宕字西下川原
◆所有者　　(宗)愛宕神社

下川原川岸を拠点として北上川舟運に従事した船持主が、天明３年(1783)、寛政元年(1789)、寛政５年(1793)と江戸時代(無記年)に航行の安全を祈願し、高寺村(愛宕)鎮守の愛宕神社に奉納したものです。北上川舟運では、江刺郡内の年貢米を石巻まで４日かけて運びましたが、実際の絵柄は江戸と大坂間を航行した菱垣廻船となっています。船絵馬はパターン化したものを購入して、郷土の社寺や神仏に奉納する場合が多く、江戸時代の水運発達の様相をうかがうことができます。

①

②

③

④

①【天明 3 年(1783)】縦 75cm、横 75cm　②【寛政元年(1789)】縦 70cm、横 60cm
③【寛政 5 年(1793)】縦 86.5cm、横 72.5cm　④【無記年】縦 75cm、横 62cm

恩俗長根の追分石（おんぞくながね　おいわけいし）

◆指定年月日　昭和 57 年 7 月 7 日
◆所在地　　胆沢小山字上恩俗
◆所有者　　個人

追分石とは街道の分岐点などにある石造の道しるべです。この追分石は江戸時代の水沢－衣川間の道標として残る唯一のもので、江戸時代の天保３年（1832）２月 22 日の銘があります。

高さ 72cm、巾 62cm
【碑文】
東八まんくうとふり前沢へ　（右側）北ミつさ王（わ）ミち　天保三年
（俵にのる大黒天図）　白敬中構　　二月廿二日
南右ころもかハミち
左忠功寺とふり

国分の追分石（こくぶん　おいわけいし）

◆指定年月日　昭和 57 年 7 月 7 日
◆所在地　　胆沢南都田字国分
◆所有者　　個人

宝暦４年（1754）４月吉日の銘があります。「せんぼく道」と刻んだ道標のうち水沢以西で最古のものです。建立は若柳村住人で、仙北道の重要性を示す追分石です。

高さ 112cm、巾 62cm
【碑文】
右ハせんぼく道
南無阿彌陀仏
南ハやまかい道
宝暦四年　四月吉日　若柳村　養右エ門

化粧坂の追分石（けしょうざか　おいわけいし）

◆指定年月日　昭和 57 年 7 月 7 日
◆所在地　　胆沢南都田字化粧坂
◆所有者　　（宗）寶性院

文化 14 年（1817）3 月 3 日の銘があり、化粧坂薬師堂道を示しています。江刺岩谷堂町の３商人が堂号碑と参道碑を兼ねて建立、寄進したもので、当時の薬師堂信仰の広がりを示すものです。

高さ 58cm、巾 20cm
【碑文】
　けはいざか
やくしみち
（背面）文化十四丑年三月三日

堰袋の追分石（せきぶくろ　おいわけいし）

◆指定年月日　昭和 57 年 7 月 7 日
◆所在地　　胆沢若柳字堰袋
◆所有者　　個人

明和５年（1768）６月 24 日の銘があります。「南無阿弥陀仏」と刻んだ道標は、亡くなった人の供養と旅の安全を祈ったものと思われます。

高さ 58㎝、巾 57㎝、ほぼ円柱状、裏面は無刻
【碑文】
右ハ鹿合みち
明和五子天
〇　南無阿彌陀仏
六月廿四日
左ハ一乃々みち

供養塚の追分石（馬頭碑）

◆指定年月日　昭和 57 年 7 月 7 日
◆所在地　　胆沢若柳字下松原
◆所有者　　個人

安政４年（1857）６月 25 日の銘があります。仙北道の記載のない珍しい碑です。神仏塔を兼ねた道標です。

高さ 71㎝、巾 45㎝、正面陰刻、裏面無刻
【碑文】

安政四年
右ハ水沢道
（梵字）馬頭碑　　左　村道
西　市野々
六月廿五日　願主　五郎介

幅下の追分石（はばした　おいわけいし）

◆指定年月日　昭和 57 年 7 月 7 日
◆所在地　　胆沢若柳字幅下
◆所有者　　個人

仙北道関連の追分碑です。道標、一里塚などと共に急速に失われつつある明治時代以前の道を示す貴重な石碑です。造立された年代は不明です。

高さ 77㎝、巾 32㎝
【碑文】
　右ハ　一の於通り仙北みち
追分
　左ハ　衣河通りやまみち

供養塚の追分石（鹿嶋大明神）

◆指定年月日　昭和 57 年 7 月 7 日
◆所在地　　胆沢若柳字一本松
◆所有者　　行山流供養塚鹿踊保存会

嘉永２年（1849）９月３日の銘があり、もともとは供養塚の八雲神社地内にあったものです。仙北道標はこの嘉永期以後、「村みち」の表示となる最初のものです。平成 15 年 11 月 30 日に八雲神社地内から農村公園「供養塚昭和の一里塚」に移設されました。

高さ 80cm、巾 58cm、奥行 43cm
【碑文】
山　　嘉永二酉年　　地主永之介
行　　鹿嶋大明神　右ハ水沢　左ハ村みち
　　九月初三日　石主　卯吉

市野々の追分石（いちのの おいわけいし）

◆指定年月日　昭和 57 年 7 月 7 日
◆所在地　　胆沢若柳字宮坂
◆所有者　　個人

享保 19 年（1734）8 月 14 日の銘がある道標です。水沢・前沢を示す道標で特に前沢通りを強調しているのは、仙北道としての性格を如実に示しています。

高さ 66cm、巾 37cm
【碑文】
　　まいさは
右ハまい沢道
　享保十九年　上胆沢若柳村高橋勘五郎　八月十四日
左ハ水沢道

館山の板碑（延慶の碑）

◆指定年月日　昭和 60 年 2 月 19 日
◆所在地　　江刺館山
◆所有者　　奥州市

延慶４年(1311)６月 15 日の銘があります。六角柱の石材の三面に金剛界大日如来種子と銘文を刻んだ珍しい板碑で、県内では他に一関市藤沢町黄海鍛冶屋敷の元亨２年(1322)があるのみです。種子は刷毛書きの薬研彫りで縦長に刻み、銘文は伸びやかで雄譚な筆致です。岩谷堂字袖山の市指定天然記念物「輝石安山岩柱状節理」の現地に昔、石屋があったといわれており、この石碑の石材はそこから運搬されてきたと考えられます。

高さ 168cm

駒籠の板碑（嘉暦の碑）

◆指定年月日　昭和 60 年 2 月 19 日
◆所在地　　えさし郷土文化館
◆所有者　　奥州市

鎌倉時代嘉暦元年（1326）の銘があり、元は愛宕字駒込にあった碑です。安永風土記に「古碑三つ有」と記述があります。一番大きな石碑は紛失しており、現在２基が残っています。平成 21 年５月にえさし郷土文化館に移設されました。

右　【阿弥陀三尊種子】　高さ 108cm、巾 39cm
左　【普賢菩薩種子】　高さ 150cm、巾 39cm

館山の板碑（康永の碑）

◆指定年月日　昭和 60 年 2 月 19 日
◆所在地　　えさし郷土文化館
◆所有者　　個人

南北朝時代康永２年（1343）と北朝の年号を使っています。もと館山二の丸旧毘沙門堂跡と伝えられる場所にあったもので、刷毛書きの種子をごく浅く彫り、蓮台と月輪をめぐらせています。

高さ 64cm、巾 44cm

七日市の板碑（延文の碑）

◆指定年月日　昭和 60 年 2 月 19 日
◆所在地　　江刺広瀬字七日市
◆所有者　　個人

鳴石神社は、古くは音石権現と称されます。神社内に大小多数の石碑が倒れて残っており、たたくとそれぞれ異なる妙音を発して鳴るとされています。安永風土記には、「名石五ツ」とし、男石、女石、枕石等と称し、旧軽石村の村名の由来となったと記載があります。指定文化財の２体とも倒れており、１体は南北朝時代延文６年（1361）の銘があり、阿弥陀観音、勢至観音両菩薩の種子を刻み、もう一体は金剛界大日如来種子を刻んでいます。

上　【延文 6 年（1361）銘「阿弥陀三尊種子石塔婆」】　高さ 273cm、巾 137cm
下　【「金剛界大日如来種子石塔婆」】　高さ 97cm、巾 35cm

柿ノ木の板碑（貞治の碑）

◆指定年月日　昭和 60 年 2 月 19 日
◆所在地　　江刺広瀬字柿ノ木
◆所有者　　個人

地名によって柿ノ木の碑、あるいは中島の碑といわれています。南北朝時代貞治３年（1364）の銘があり、銘文の「願衣此れ功徳云々」は法華経化城喩品第七にある句で、回向句としてよく知られますが、「此之濁中念仏云々」は覚鑁が「五輪九字明秘密釈」に示した秘密念仏の教えで、隠し念仏の源流ではないかとされています。

高さ 124cm、巾 50cm
【碑文】
此之濁中念佛供養　那寿往生得安楽国　貞治第三七月廿二日　敬白
願衣此功徳普及於一切　我等与衆生皆供成佛道

市野々（いちのの）のまいりの仏（ほとけ）

◆指定年月日　昭和 61 年 2 月 1 日
◆所在地　　胆沢郷土資料館
◆所有者　　個人

放光阿弥陀如来像、六字名号、黒駒太子像の三幅一対をなしています。こういった仏画は岩手県では「まいりの仏」と総称されています。室町時代末期の作とされています。

黒駒太子像　　放光阿弥陀如来像　　六字名号

【黒駒太子像】　絵画面：縦 103.0cm、横 48.6cm
【放光阿弥陀如来像】　絵画面：縦 87.0cm、横 37.4cm
【六字名号】　絵画面：縦 101.5cm、横 27.4cm

若柳愛宕のまいりの仏

◆指定年月日　昭和 61 年 2 月 1 日
◆所在地　　胆沢郷土資料館
◆所有者　　個人

「まいりの仏」掛軸であり、本来は、鉱山町として栄えた下嵐江にあったものと考えられます。黒駒太子絵軸と放光報身阿弥陀如来図で一対をなしています。戦国時代 16 世紀中頃の作とされています。

黒駒太子絵軸

放光報身阿弥陀如来図

【黒駒太子絵軸】　絵画面：縦 70cm、横 26.8cm
【放光報身阿弥陀如来図】　絵画面：縦 70cm、横 27cm
和紙

河内の月山神社棟札（かわうち　がっさんじんじゃむなふだ）

◆指定年月日　平成元年 6 月 27 日
◆所在地　衣川下河内
◆所有者　個人

室町時代文明 17 年(1485)の棟札３枚は、銘文からこの地方の領主机地氏による河内月山神社再興の折のものであることが分かっています。３枚のうち２枚は読み取ることができますが、残りの１枚は赤外線撮影によって内容が判読されました。３枚とも造営に関わったそれぞれの立場からのもので、また中世資料としても大変貴重な文化財です。

① 縦 70.0 cm
② 縦 62.5 cm
③ 縦 63.5 cm

寺田の墨書板碑（てらだ　ぼくしょいたび）

◆指定年月日　平成元年 6 月 27 日
◆所在地　衣川上寺田
◆所有者　個人

板碑は中世期には墓や供養のために全国的に盛んに建立され、岩手県でも県南を中心に 1000 基以上建てられていますが、墨書板碑は珍しいものです。墨書板碑の存在は、年号や建碑の目的などを刻まず、主尊の種字のみを刻印する板碑や何も刻印しない白碑も本来は墨書があったことを示唆します。この地方の中世資料として重要であるにとどまらず、梵字単刻板碑や白碑の再検討を迫る重要な学術的意義を有しています。室町時代初期(14 世紀)。

高さ 102cm、巾 46cm、奥行 21cm、安山岩製、陰刻及び墨書
梵字バン、墨書は梵字で光明真言、中央に「薬山」の漢字

中萱刈窪のまいりの仏（なかかやかりくぼ　ほとけ）

◆指定年月日　平成 10 年 7 月 8 日
◆所在地　　胆沢郷土資料館
◆所有者　　個人

六字名号と放光阿弥陀如来図は16世紀中ごろ、阿弥陀如来来迎図と黒駒太子登岳図は 16 世紀後半～桃山時代と推定され、それぞれ同一人物による制作の可能性が指摘されています。

六字名号　放光阿弥陀如来図　阿弥陀如来来迎図　黒駒太子登岳図

【六　字　名　号】　絵画面：縦 87cm、横 22cm　　表装：縦 123.5cm、横 28cm
【放光阿弥陀如来図】　絵画面：縦 91.3cm、横 35cm　　表装：縦 144.4cm、横 40.2cm
【阿弥陀如来来迎図】　絵画面：縦 83.9cm、横 35.9cm　表装：縦 119.1cm、横 41.5cm
【黒駒太子登岳図】　絵画面：縦 87cm、横 38.2cm　　表装：縦 126cm、横 43.2cm

八幡屋敷の八幡社幟（やわたやしき　はちまんしゃのぼり）

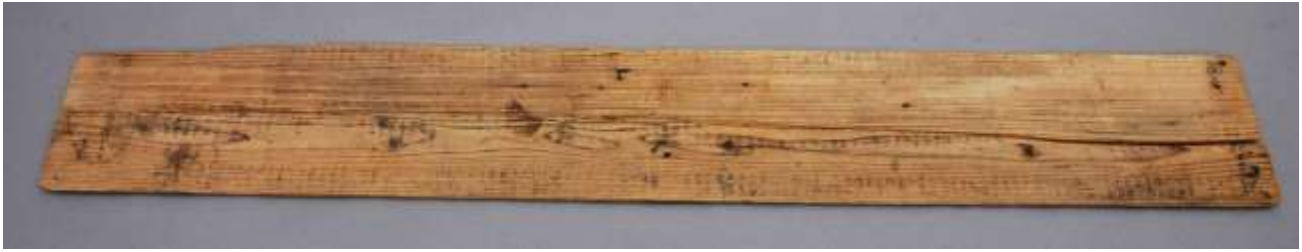
◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢若柳字八幡屋敷
◆所有者　　個人

幟は旗の上辺と側片を棒に通したもので、奉納した人の名前と年月日などが記されています。八幡社の歴史資料であると同時に、地域の歴史を物語る資料です。寛政９年(1797)。

【寛政九丁巳年】　縦 250cm、横 32cm

堰袋の馬頭観世音堂寄進札
（せきぶくろ　ばとうかんぜおんどうきしんふだ）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢若柳字堰袋
◆所有者　　個人



馬頭観世音堂に寄進を行った人の名前とその金額が記載されています。享保９年(1724)。

【享保九甲辰暦九月十九日】　縦 24.0cm、横 270cm

森の胆堀神社棟札
（もり　い ほりじんじゃむなふだ）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢小山字森
◆所有者　　(宗)胆堀神社

棟札とは建物の建築・修築の記録・記念として、建物内部の高所に取り付けた札です。築造年月日や建築主や大工の名、工事の目的などが記されていて、建物の建築時の様子がうかがえる資料です。本棟札は年号の記載はありませんが、住職、別当の名前から、寛政年間のものであると推測されます。

表

裏

【奉造立蔵王権現宮一宇村内安全之攸】　縦 54cm、横 13cm

大畑の山王権現社棟札
（おばたけ　さんのうごんげんしゃむなふだ）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　胆沢小山字前大畑
◆所有者　個人

安永２年(1773)の同文の棟札２枚。山王権現社と地域の歴史を物語る資料です。

①表　①裏　②表　②裏

【安永二癸巳天十月吉日】　①縦 45cm、横 11cm（下側欠損）
②縦 45cm、横 11cm

長檀（ながだん）の御駒社棟札（おこましゃむなふだ）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢小山字北長壇
◆所有者　　個人

享保８年(1723)、寛政４年(1792)、寛政 12 年(1800)。御駒社と地域の歴史を物語る資料です。

①表

①裏

②表

②裏

③表

③裏

①【享保八年五月廿九日】　縦 57cm、横 15cm
②【寛政四壬子十月吉日】　縦 55cm、横 18cm
③【寛政十二庚申龍集菊月吉旦】　縦 54.5cm、横 18.5cm

高縁の神明神社棟札・幟

（こうえん　しんめいじんじゃむなふだ　のぼり）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢小山字高縁
◆所有者　　(宗)神明神社

正徳３年(1713)、安永３年(1774)、天明８年(1788)、寛政 10 年(1798)の棟札と明和６年(1769)の幟。神明神社と地域の歴史を物語る資料です。

①表　①裏

②表　②裏

幟

③表　③裏

④表　④裏

棟札
①【正徳三癸巳年五月九日】　縦 54cm、横 12cm
②【安永三天十月九日】　縦 82cm、横 17cm
③【天明八申歳九月十五日】　縦 82.5cm、横 15cm
④【寛政十午歳九月十五日】　縦 60cm、横 16cm
幟【千旨明和六龍集己丑天】(1対=2枚) 縦 273cm、横 32cm

伊勢堂（いせどう）の伊勢堂棟札（いせどうむなふだ）・幟（のぼり）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢小山字伊勢堂
◆所有者　　個人

安永２年(1773)。伊勢堂と地域の歴史を物語る資料です。

①表　①裏

②表　②裏

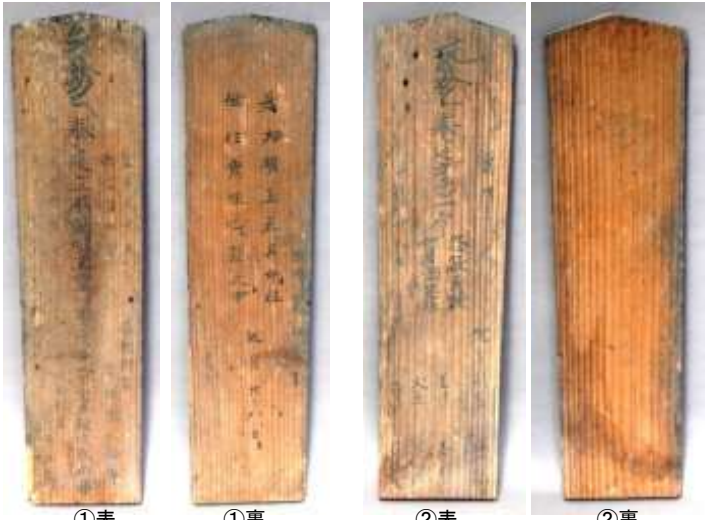
幟

棟札
①【安永二己天十月十六日】　縦 85cm、横 30cm
②【安永二己天十月十六日】　縦 85cm、横 29cm
幟【安永二年九月吉日】　縦 287cm、横 60cm

大袋の不動尊堂棟札
（おおぶくろ　ふどうそんどうむなふだ）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　胆沢小山字大袋
◆所有者　個人

寛政元年(1789)、寛政３年(1791)。不動尊堂と地域の歴史を物語る資料です。



①表　①裏　②表　②裏

①【寛政元年九月廿八日】　縦 43.5cm、横 11.2cm、
②【寛政三亥歳三月廿八日】　縦 42.5cm、横 11.8cm

机地の弁財天堂幟（つくえじ　べんざいてんどうのぼり）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢南都田字机地
◆所有者　　個人

寛政 12 年(1800)。弁財天堂と地域の歴史を物語る資料です。

【寛政十二年庚申】　縦 200cm、横 30cm

宝蔵山宝寿寺棟札
（ほうぞうさんほうじゅじむなふだ）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢南都田上広岡
◆所有者　　(宗)宝寿寺

宝暦２年(1752)、寛政２年(1790)。宝寿寺と地域の歴史を物語る資料です。

①表　①裏　②表　②裏

①【宝暦二壬申二月當寺六世鷲山代材木寺内】
　縦 81.5cm、横 9.5cm
②【寛政二戌三月吉日】
　縦 76cm、横 21cm

熊野（くまの）の熊野社棟札（くまのしゃむなふだ）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢南都田字熊野
◆所有者　　個人

正徳４年(1714)。熊野神社と地域の歴史を物語る資料です。

表　　裏

【正徳甲午年四月十一日】　縦 48cm、横 19cm

下鹿合の子養観音堂棟札
（しもししあわせ　こ やすかんのんどうむなふだ）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢若柳字下鹿合
◆所有者　　個人

安永４年(1775)の「天照皇大神宮一宇」と「子安地蔵菩薩一宇」の棟札です。子養観音堂と地域の歴史を物語る資料です。

①表

①裏

②表

②裏

①【安永四乙未天十月廿三日　天照皇大神宮一宇】
　縦 60cm、横 31.5cm
②【安永四乙未天十月廿三日　子安地蔵菩薩一宇】
　縦 62.2cm、横 31.8cm

愛宕の愛宕神社棟札
（あたご　あたごじんじゃむなふだ）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢若柳字愛宕
◆所有者　　個人

宝暦 12 年(1762)。衣川増沢にあった愛宕社の棟札です。増沢ダム建設のために増沢から遷座し、愛宕神社に合祀されています。神社と地域の歴史を物語る資料です。

表

裏

【宝暦十二天六月廿四日】　縦 60cm、横 16cm、材質スギ

観音堂（かんのんどう）の観音堂棟札（かんのんどうむなふだ）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢若柳字観音堂
◆所有者　　個人

享保２年(1717)。観音堂と地域の歴史を物語る資料です。

表

裏

【于時京保二丁酉天三月十七日】
縦 61cm、横 17.5cm、材質スギ

大町の伊勢堂棟札（おおまち　いせどうむなふだ）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢若柳字大町
◆所有者　　個人

明和８年(1771)、万延元年(1860)。伊勢堂と地域の歴史を物語る資料です。①の棟札は現在は年号部分が欠損していますが、過去の調査から元禄４年(1691)のものであるとされています。

①表

①裏

②表

②裏

③表

③裏

棟札 3 枚
①【御伊勢大神宮奉建立村里安穏所敬白】　縦 47cm、横 17cm
②【明和八年十一月十六日】　縦 49.3cm、22.2cm
③【萬延元年八月二日】　縦 51.4cm、横 20cm

松原の熊野社棟札（まつばら　くまのしゃむなふだ）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢若柳字松原
◆所有者　　個人

寛政 10 年(1798)。熊野社と地域の歴史を物語る資料です。

表

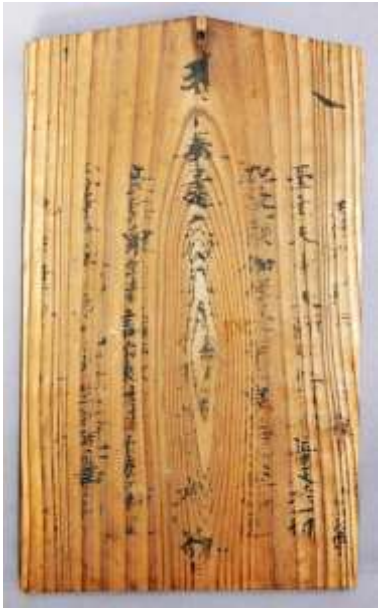
裏

【寛政十歳八月二十四日】
高さ 43.5cm、巾 20.5cm、材質スギ

化粧野の三嶋神社棟札
（けしょうの　みしまじんじゃむなふだ）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　胆沢若柳字化粧野
◆所有者　個人

正徳６年(1716)。三嶋神社と地域の歴史を物語る資料です。



表

裏

【正徳六年丙申天九月吉日】
縦 33㎝、横 22㎝、材質スギ

新中の新山神社棟札
（しんなか　にいやまじんじゃむなふだ）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢若柳字新中
◆所有者　　(宗)新山神社

享保 12 年(1727)。新山神社と地域の歴史を物語る資料です。

表

裏

【享保十二丁未歳吉日吉辰】
縦 68cm、横 24.5cm、材質スギ

四季耕作図絵馬（しきこうさくずえま）

◆指定年月日　平成 28 年 2 月 26 日
◆所在地　　奥州市牛の博物館
◆所有者　　(宗)白山神社

安政５年(1858)の旧暦８月１日（八朔）に、六日入村の白山神社に奉献された絵馬です。種籾を池に浸す作業から米俵が蔵に搬入されるまでの、幕末の当地方における米作りの一連の作業が描かれています。岩手県内には四季耕作図は少なく、中でも絵馬として奉納されたものは本資料のみとなっています。

【奉献　御賽前　安政五　戌午載　南呂朔日　當村施主菅原萬右衛門】　縦 89 cm、横 112 cm、厚 4.5 cm

剣舞道化面（けんばいどうけめん）

◆指定年月日　平成元年 12 月 26 日
◆所在地　　胆沢小山字伊勢堂
◆所有者　　個人

小山字伊勢堂地区には、寛政８年(1796)に都鳥地区から朴ノ木沢念仏剣舞（ユネスコ無形文化遺産・重要無形民俗文化財）が伝えられており、本資料はその伊勢堂から発見されました。現在の朴ノ木沢念仏剣舞には、この面をつけて踊る演目はありませんが、過去に伝承されていたものが踊られなくなり、「面」だけが残ったと思われます。朴ノ木沢念仏剣舞の系譜だけでなく芸能の失われた分野の保存としても貴重です。

面長 22.9cm、巾 18.2cm、厚 9.3cm、材質キリ、黒色顔料漆塗布仕上

吉祥院能面（きっしょういんのうめん）

◆指定年月日　平成元年 12 月 26 日
◆所在地　　胆沢小山字中昼沢
◆所有者　　個人

時期は不明ですが、山伏によってもたらされた能面です。いずれも表情にやわらかさを有した優品で、江戸時代中期に「霊山猿山」と呼ばれる経緯や山伏修験の存在を考察する資料として重要です。また、山伏神楽の伝承経過を物語る資料として、修験道の定着と民間信仰との関係を裏付ける資料としても貴重です。

①女面１　縦 20.9cm、横 13.6cm、ヒビあり
②女面２　縦 21.5cm、横 14.3cm
③男面　縦 20.1cm、横 15.7cm　　④尉面　縦 20.5cm、横 13.8cm

中沢神楽面（なかさわかぐらめん）

◆指定年月日　平成元年 12 月 26 日
◆所在地　胆沢小山字上中沢
◆所有者　個人

中沢神楽発足前後に制作・使用された面です。制作年代は面箱から文政 11 年(1828)の作であり、芸能面の中でも制作年代の明確な資料として貴重です。中沢神楽は現在は廃絶して舞われておらず、江戸時代末期の面相、面種、制作技法等を示す資料としても重要です。

①女面	縦 19.7cm、横 13.0cm	②三番叟面	縦 19.4cm、横 14.0cm	③荒面	縦 18.6cm、横 15.0cm
④荒面	縦 24.0cm、横 16.3cm	⑤道化面	縦 19.0cm、横 14.5cm	⑥翁面	縦 21.5cm、横 14.5cm
⑦荒面	縦 18.4cm、横 15.2cm	⑧若人面	縦 21.3cm、横 14.0cm	⑨女面	縦 19.6cm、横 13.0cm
⑩道化面	縦 17.8cm、横 13.9cm	⑪女面	縦 20.1cm、横 12.7cm	⑫翁面	縦 20.8cm、横 14.4cm
⑬荒面	縦 18.4cm、横 15.5cm	⑭荒面	縦 19.0cm、横 15.7cm	⑮若人面	縦 19.6cm、横 14.0cm
⑯翁面	縦 17.0cm、横 13.2cm	⑰おかめ	縦 20.4cm、横 15.4cm		

山神社剣舞絵馬（やまのかみしゃけんばいえま）

◆指定年月日　平成 13 年 6 月 1 日
◆所在地　　胆沢若柳字上萩森
◆所有者　　個人

文久３年（1863）に胆沢若柳上萩森の山神社に奉納されたもので、剣舞を描いた絵馬は非常に珍しいとされています。絵馬には、念仏剣舞の由来等を記した伝本にみられる「剣舞七人図※」のうちの３人が描かれており、衣川の大平念仏剣舞系の剣舞であると考えられています。衣川の念仏剣舞を描いた絵馬が、胆沢の神社に奉納されているということから、両地域間での交流が推察されます。胆沢地域の剣舞の系統や、胆沢と衣川との歴史的関係を考えるうえで重要な資料です。

【文久三癸亥年十二月吉日】　縦 25cm、横 36cm、材質スギ

表

裏

※「剣舞七人図」
大平剣舞と大平剣舞から各地に伝えられた念仏剣舞の伝本には、由来のほか「剣舞七人図」と記し、７人のイカモノ（舞手）を表した図絵が載せられています。「剣舞七人図」に説明は付けられておらず、口伝によって踊り方を伝授されていたのではないかと考えられています。